

防災減災学術連携委員会（第25期・第5回）

議事要旨

日 時：令和4年1月7日（金）10:00～11:50

会 場：ZOOMを用いたオンライン会議

出席者： 米田雅子（委員長）、田村和夫（幹事）、今村文彦、畝本恭子、大西隆、菊地優、小池俊雄、齊藤大樹、鈴木康弘、高橋良和、寶馨、竹内徹、永野正行、中村尚、平田直、目黒公郎、森口祐一、安村誠司、山本あい子、山本佳世子、吉原直樹、若尾政希、和田章（23名）

欠席者： なし

事務局： 薦田有紀子、小山堯

議 題：

- 1) 前回議事要旨案の確認
- 2) 役員を選出
- 3) ぼうさいこくたい2021の報告
- 4) ぼうさい学術連携シンポジウムの企画について
- 5) 府省庁・防災学術連携体との連絡会について
- 6) その他

配付資料：

- 資料1 前回議事要旨案（第25期・第4回）
- 資料2 シンポジウム事後報告（防災教育と災害伝承）
- 資料3 ぼうさいこくたいシンポジウム\_\_プログラム
- 資料4 特別シンポジウム\_\_プログラム
- 資料5 第13回防災学術連携シンポジウム\_\_企画案
- 資料6 防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会\_\_テーマについて

議 事：

- 1) 前回議事要旨案の確認

・田村幹事より、前回委員会（第 3 回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」として開催）の議事要旨案の説明があり、異議なく承認された。

## 2) 役員を選出

- ・副委員長として安村誠司委員が選出された。
- ・幹事として永野正行委員が選出された。

## 3) ぼうさいこくたい 2021 の報告

・田村幹事より、資料 2、資料 3 を用いて、ぼうさいこくたい 2021 の中の 1 セッションとして 11 月 6 日にオンラインで開催された、防災学術連携体と共催の、日本学術会議公開シンポジウム「防災教育と災害伝承」の開催報告があった。（Zoom ウェビナーの総参加者数が 559 名と多数であった。）また、同日に防災学術連携体の特別シンポジウムとして、「防災教育と災害伝承への多様な視点 ―東日本大震災からの 10 年を経て―」が開催され、多くの参加者があったことの報告もあった。

・上記の二つのシンポジウムでは、防災教育と災害伝承に関する多様な観点からの発表が、多数の学会よりあり、有意義な会であったとの感想、および今後もさらに発展させて継続的に防災教育と災害伝承についての活動を進めていくべきとの意見があった。

## 4) 防災学術連携シンポジウムの企画について

・田村幹事より、資料 5 を用いて、第 13 回防災学術連携シンポジウムの計画案の説明があった。これは防災学術連携体にて提案された内容で、テーマは「自然災害を取り巻く環境はどのように変化してきたか」とし、本年 5 月頃開催する案となっている。今回は、災害の影響を受ける「人」が災害の要因もつくっているという観点からのテーマであるとの追加説明が米田委員長からあった。本案に対し、基本的なプログラム案に対する異議は無く了承された。なお、人新世に関連する基調講演について以下の推薦があった。

海洋研究開発機構の平朝彦先生（地球科学的な観点から）・・・今村委員からの推薦

総合地球科学研究所の安成哲三先生（特に大気・水・生態系等の観点から）

・・・小池委員からの提案

以上を踏まえ、推薦された 2 名の先生方に基調講演をお願いすることとし、概略のプログラム案を添えて今村委員、小池委員より基調講演を依頼していただくこととなった。

## 5) 府省庁・防災学術連携体との連絡会について

・田村幹事より、資料 6 として、過去に開催された、府省庁・防災学術連携体との連絡会および防災学術連携シンポジウムのテーマが紹介された後、今年の連絡会テーマ案、および秋のぼうさいこくたい（神戸にて開催予定）のテーマ案について、各委員から以下の意見、情報提供があった。これらを参考に、今後の計画を進めることとなった。

<府省庁との連絡会：感染症・医療・健康関係のテーマ>

- ・健康危機管理としての、災害時の感染症対応、健康と医療関連テーマ。
- ・コロナウィルス感染症の問題は、それ自体が災害とも考えられる。
- ・感染症をテーマにすると、内容が医療に偏るかもしれない。また現在の感染症の状況は今後変化する可能性もある。広い意味の災害を対象にしておくといよい。
- ・感染症や他の自然災害のテーマの場合も含めて、学術・科学研究の役割・貢献を伏線として入れておくのが重要。
- ・IT 技術、感染症対応も含めて、自然災害時対応関連のテーマ。
- ・人同士のコミュニケーションの復活方法も重要。
- ・スペイン風邪の時の報告書（内務省：「流行性感冒」）に基づく当時の動きを参照することも考えられる。
- ・熱波・熱中症：災害と医療関係のテーマ。
- ・（災害、感染症における（個人情報を含めた））情報の管理。
- ・感染症関係の情報も連絡会の開催時期にはかなりそろってきているはず。
- ・自然災害以外の災害（原子量災害、感染症など）における政府と専門家の関係。
- ・医療、公衆衛生の視点。
- ・専門知・民衆知・実践知がどうかみあうか、AI 技術がどう影響するか。

<府省庁との連絡会：地震災害関係のテーマ>

- ・巨大地震への備え（関東地震 100 周年は 2023 年に各種企画が出ることも念頭に置く）
- ・防災の制度設計・防災ビジネス、情報活用の体制

<ぼうさいこくたいのテーマについて>

- ・復興・まちづくり関連。
- ・神戸の震災と各分野における復旧・復興過程：レジリエンスの観点でまとめる。
- ・ヒトの健康の視点も入れておくといよい。

- ・神戸の問題のその後（危機管理体制、現在の直下地震対策、南海地震と直下地震との関連、など）。
- ・防災とボランティア：共助に絡めたテーマ。
- ・コロナ、自然災害との向き合い方、その変化（歴史学・人類学・心理学の観点も含めて）。

<その他関連情報>

- ・小池委員より、IRDR 分科会の活動として、2023年9月の関東地震100周年に合わせて国際ワークショップ「国難級災害を乗り越えるためのレジリエンスの確保の在り方 ―関東大震災100年を振り返って」がの開催が予定されており、令和4年の12月に提言案完成、6月に関連する学術フォーラムを予定していることの説明があった。
- ・實委員より、日本自然災害学会から「自然災害科学・防災の百科事典」を出版されたことの紹介があった。

6) その他

次回の防災減災学術連携委員会は、3月下旬～4月上旬に開催することとする。

以上